

基礎原案での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.44	行	6行目
事業名	隠元橋架替及び隠元橋付近の用地交渉の継続実施		河川名	宇治川			
府 県	京都府	市町村	宇治市	地先	隠元地区		

現状の課題
 宇治川右岸の隠元地区においては、昭和55年に引堤事業に着手し、未整備区間の約200mを残すのみとなっており、隠元橋の架替と合わせて早期に完成させる必要がある。

河川整備の方針
 (3)一連区間整備の完成等
 既に一連区間の整備が進められてきており、ごく一部の区間のみが未整備である箇所限定し、速やかに事業を完了し浸水被害の軽減を図る。

位置図



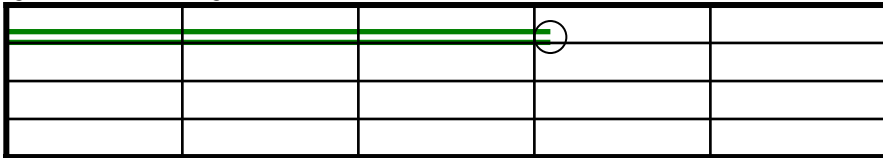
具体的な整備内容
 隠元橋の架替を京都府の道路事業と共同で継続実施するとともに、隠元橋付近の用地交渉を継続し、一連区間の堤防整備を継続実施する。

・事業の数量・諸元等
 橋梁架替
 用地買収

事業費

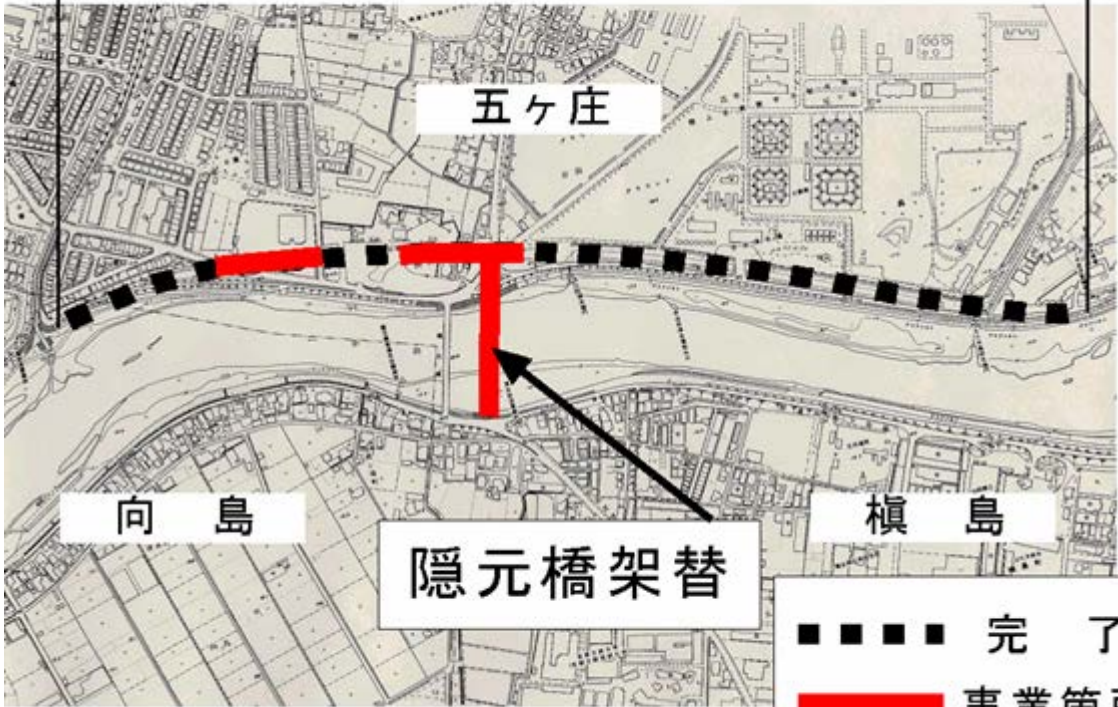
・全体事業費	約 87億円
・うち執行済	約 64億円
・うち整備計画期間内	約 23億円
・うち整備計画期間以降	0億円

スケジュール

H15	H16	H17	H18	H23	H25	H28
						

平面図

引堤区間 L = 1, 200 m



横断面図

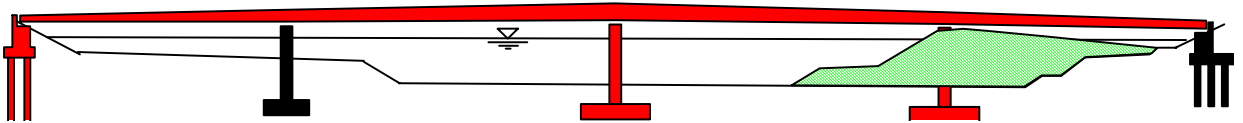
隠元橋諸元

橋長 195.5m

設計速度 60km/h

4径間連続鋼床板箱桁橋

幅員 27.8m



—— 完成

—— 施工中

整備効果

隠元地区:昭和55年に着手した一連区間の早期概成

京都府と共同施工により事業の効率化が図れる。

また、交通渋滞の解消を図る

引堤による下流部への影響

橋梁部付近の引堤のみであり、下流部に対して水位及び流量とも増えない。

提案理由(代替案含む)

隠元橋付近の引堤の必要性

昭和55年に着手した一連区間の早期完成を図る

全体整備区間 約1000m

内未整備区間 約200mであり早期完成させる

橋梁架替については京都府と一体的施工により事業の効率化が図れる

代替案

・流下能力上: ×堤防嵩上げ案 被害ポテンシャルを増大させる
×河床掘削案 河川縦断方向への影響大きい
左岸引堤案 人家密集地域でもあり、周辺地域への影響が大きく長期化

具体的な整備内容

京都府の隠元橋架替計画と整合を図りながら、橋梁部付近の引堤を継続する。

基礎原案での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.44	行	9行目
事業名	大下津地区堤防拡幅		河川名	桂川			
府 県	京都府	市町村	京都市		地先	大下津地区	

現状の課題
 現在の堤防は必ずしも防災構造物としての安全性について十分な信頼性を有していない。破堤による被害ポテンシャルは現在においても増大し続けており、破堤すれば、人命が失われ、家屋等が破壊され、ライフラインが途絶する等、ダメージを受けることとなる。

河川整備の方針
 (3)一連区間整備の完成等
 既に一連区間の整備が進められてきており、ごく一部の区間のみが未整備である箇所に限定し、速やかに事業を完了し浸水被害の軽減を図る。

位置図

具体的な整備内容
 ・大下津地区において、住宅地整備と一体となった堤防拡幅を継続実施する。

・事業の数量・諸元等
 堤防拡幅
 「旧堤撤去含む」

事業費

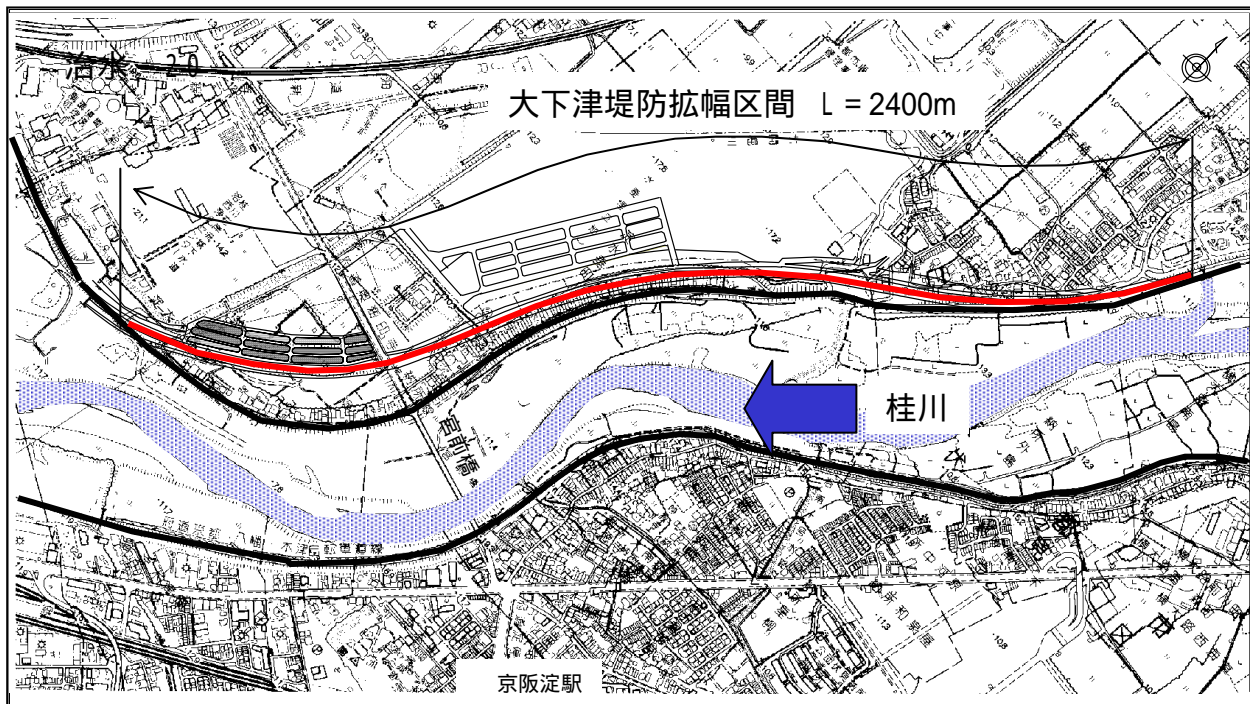
・全体事業費	約 400億円
・うち執行済	約 170億円
・うち整備計画期間内	約 230億円
・うち整備計画期間以降	0億円

スケジュール

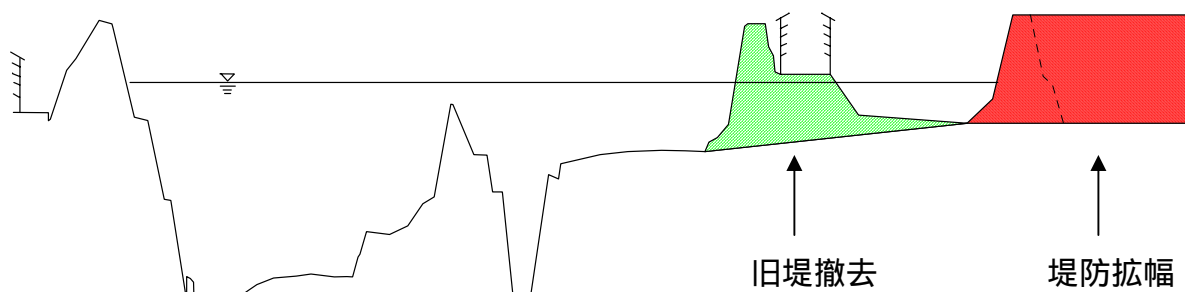
H15	H17	H19	H21	H23

■ 検討
■ 試行・委員会
■ 実施

平面図

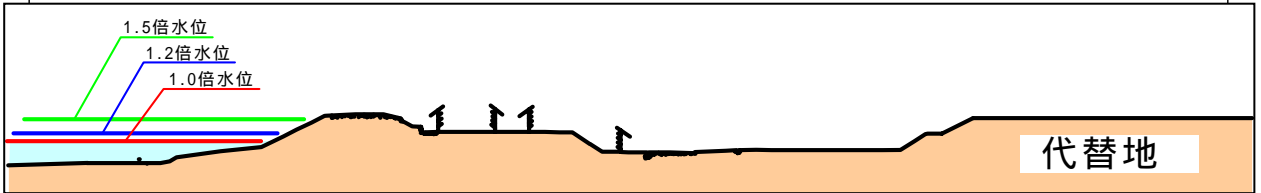
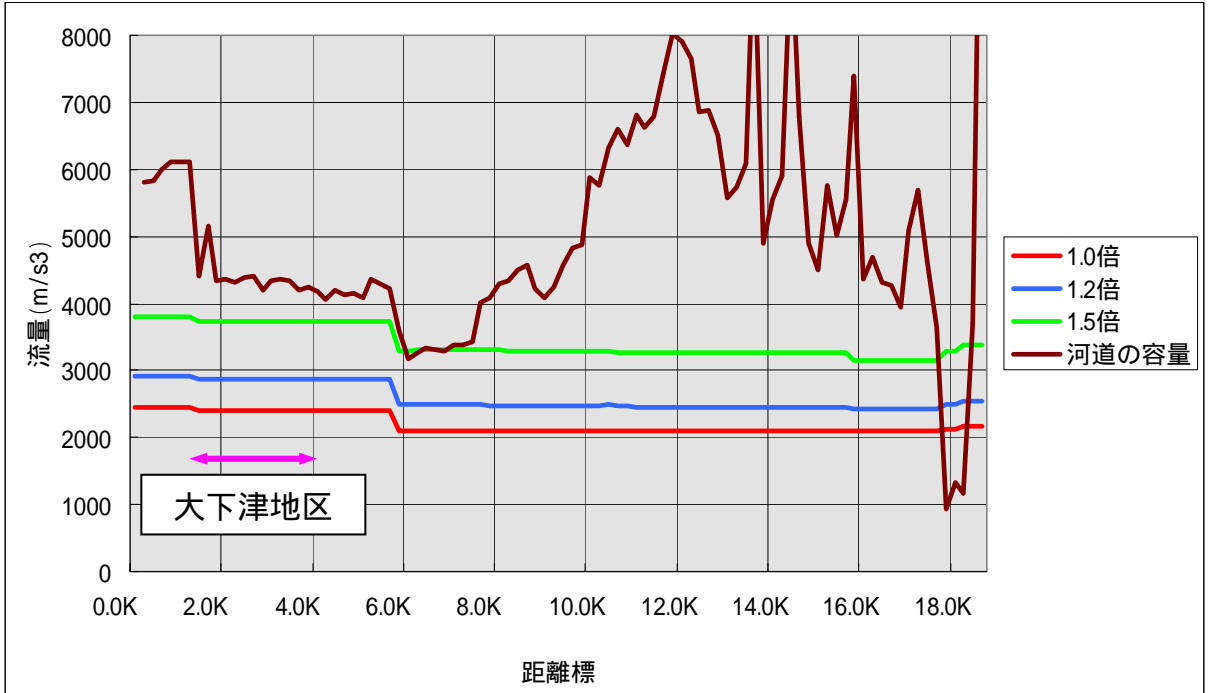


横断面図



整備効果

大下津付近の現況



大下津地区一連区間の完成

関連事業(京都市)と連携することで、事業の効率化が図れる。

沿川の地盤嵩上げに伴い最も望ましい堤防強化が図れる

堤防拡幅(旧堤撤去)による下流部への影響

堤防拡幅(旧堤撤去)を実施することで、下流部に対し水位及び流量が若干増加する。従い、下流の破堤対策の進捗を踏まえ旧堤撤去を実施

・水位、流量の増減量

枚方地点 流量規模1.0倍 水位及び流量とも増加しない

流量規模2.0倍 水位約6cm 流量約150m³/sの増加

提案理由(代替案含む)

大下津地区堤防拡幅の必要性

最も望ましい堤防強化が図れる(スーパー堤防化)

昭和53年:京都市及び地元住民に対し用地交渉も含め事業説明、調整を実施。

昭和63年:下流、淀大下津町から着手し築堤及び移転代替地の造成等を実施し、平成14年度に概成。

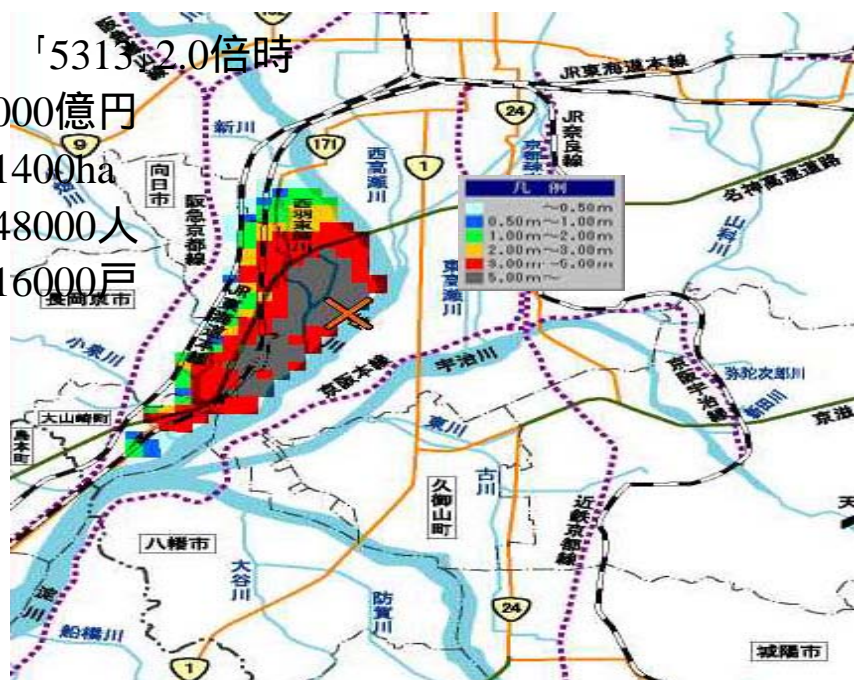
現在:淀水垂町に対し用地交渉に着手

従い、京都市及び地元住民と連携・協力のもと事業を実施しており、移転対象者の生活再建等を図る必要がある

整備効果

想定氾濫被害「5313」2.0倍時

- ・被害額 16000億円
- ・浸水面積 1400ha
- ・被災人口 48000人
- ・浸水家屋 16000戸



代替案

- ・堤防拡幅化: 最も望ましいスーパー堤防化である。
- ・流下能力上:
 - × 堤防嵩上げ案 被害ポテンシャルを増大させる
 - × 河床掘削案 河川縦断方向への影響大きい
 - × 右岸引堤案 人家密集地域でもあり、周辺地域への影響が大きく長期化

具体的な整備内容

これまでの地域住民との合意に基づき、堤防拡幅を継続し堤防強化を図る。なお、下流の堤防強化対策の進捗を踏まえ、旧堤撤去を実施する。

基礎原案での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.44	行	11行目
事業名	小谷地区浸水対策		河川名	木津川下流			
府 県	京都府	市町村	加茂町		地先	小谷	

現状の課題
 現在の堤防は必ずしも防災構造物としての安全性について十分な信頼性を有していない。破堤による被害ポテンシャルは現在においても増大し続けており、破堤すれば、人命が失われ、家屋等が破壊され、ライフラインが途絶する等、ダメージを受けることとなる。

河川整備の方針
 (3)一連区間整備の完成等
 既に一連区間の整備が進められてきており、ごく一部の区間のみが未整備である箇所限定し、速やかに事業を完了し浸水被害の軽減を図る。

位置図



事業箇所

具体的な整備内容
 ・小谷地区の築堤を継続実施する。

・事業の数量・諸元等
 盛 土

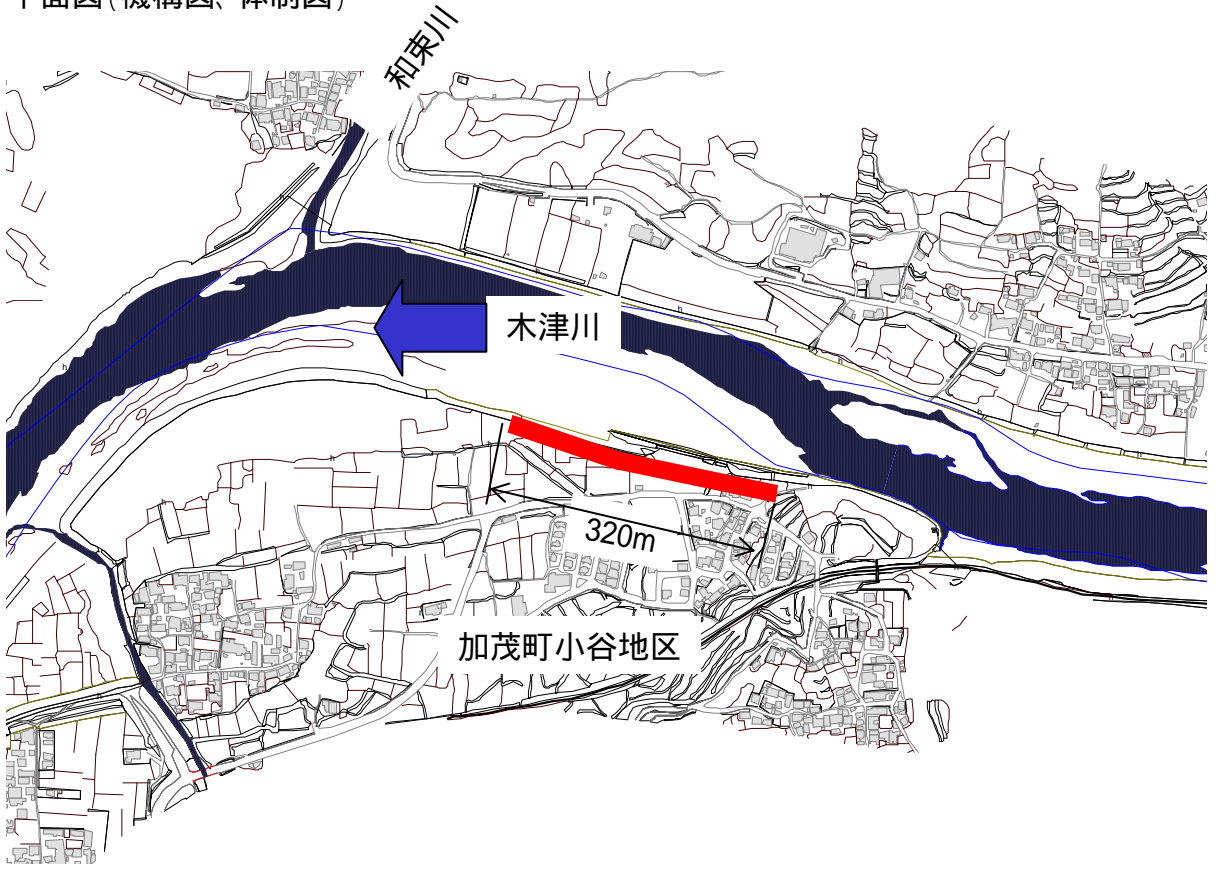
事業費
 ・全体事業費 約 6.0億円
 ・うち執行済 約 5.6億円
 ・うち整備計画期間内 約 0.4億円
 ・うち整備計画期間以降 0億円

スケジュール

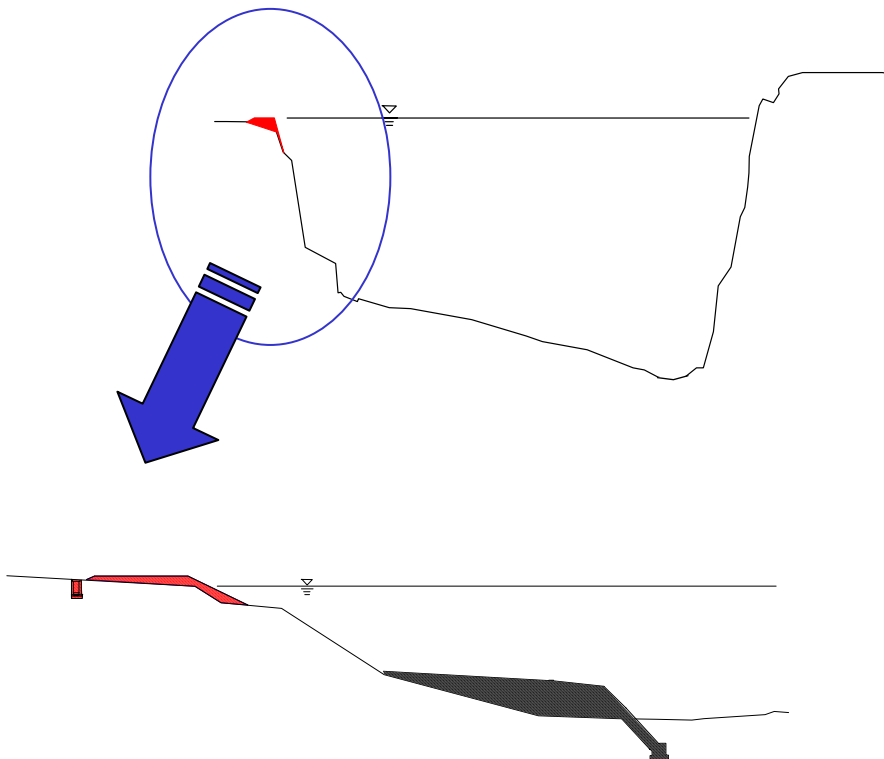
H15	H17	H19	H21	H23	H25
○					

■ 検討
■ 試行・委員会
▬ 実施

平面図(機構図、体制図)



横断図



整備効果

小谷地区:昭和60年に着手した一連区間の早期概成
既往洪水以下の浸水被害軽減が図れる

築堤による下流部への影響

下流部に対する影響は少ない。

提案理由

小谷地区の築堤の必要性

昭和28年台風13号洪水により家屋流出

近年では昭和57年台風10号による被災

昭和60年に着手した一連区間の早期完成を図る

現況河岸高において、既往洪水以下の流下を図れる

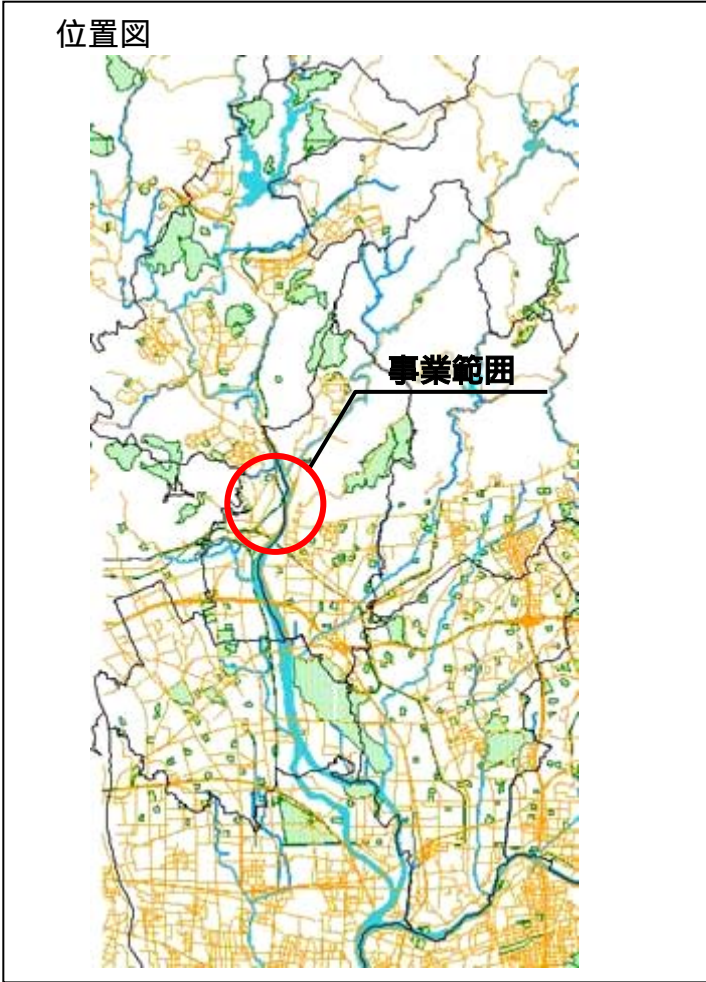
具体的な整備内容

小谷地区の無堤箇所を平成15年度中に築堤完成する。

基礎原案での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.44	行	13行目
事業名	川西池田地区の築堤を実施		河川名	猪名川			
府 県	大阪、兵庫	市町村	池田市、川西市		地先	川西池田	

現状の課題
 狭窄部下流の山地部から平地部へ流れ出る箇所に無堤地区が存在し、ここからの浸水は地形上閉鎖的な浸水にとどまらず、伊丹地域から大阪平野北部へと広がることが予想される。

河川整備の方針
 下流の破堤の危険性を増大させる無堤部の築堤等は、下流の河川整備の進捗状況等を見て判断することが原則である。ただし、既に一連区間の整備が進められてきており、ごく一部の区間のみが未整備である箇所に限定し、速やかに事業を完了し浸水被害の軽減を図る。

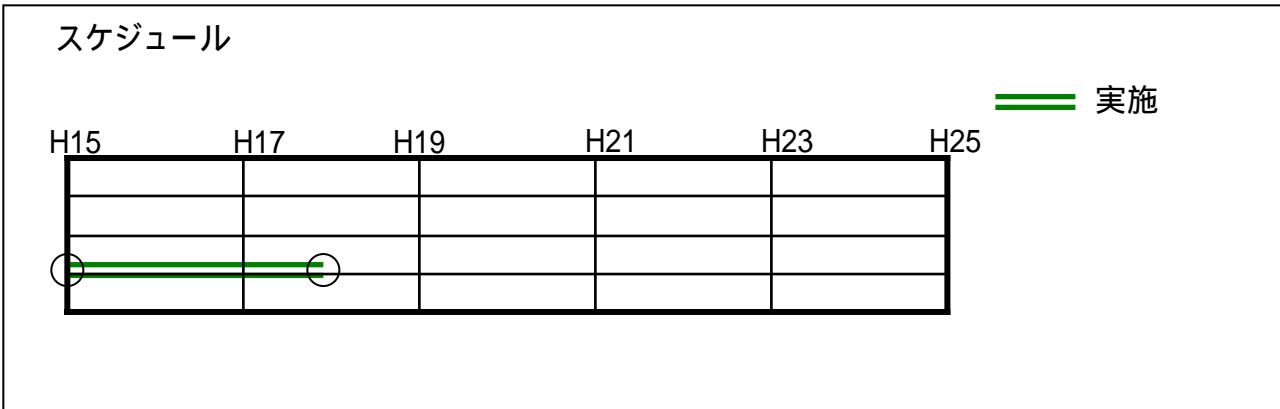


具体的な整備内容
 (3)一連区間整備の完成等
 猪名川
 川西、池田地区の築堤を継続実施する。

・事業の数量・諸元等	
築堤	約4km
樋門・樋管	5基
橋梁	2橋
・うち整備計画期間内の数量・諸元等	
築堤	約1km
樋門	1基
橋梁	1橋

事業費

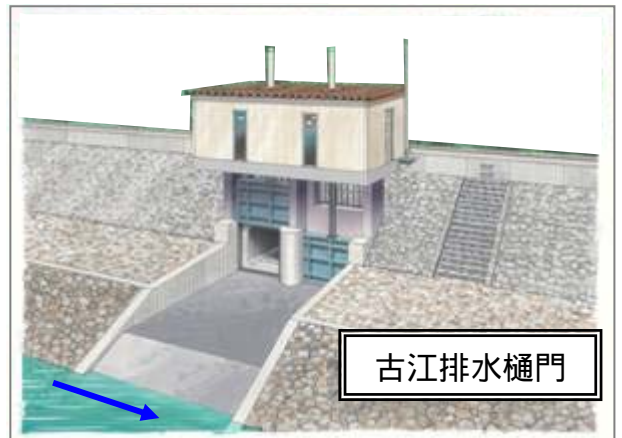
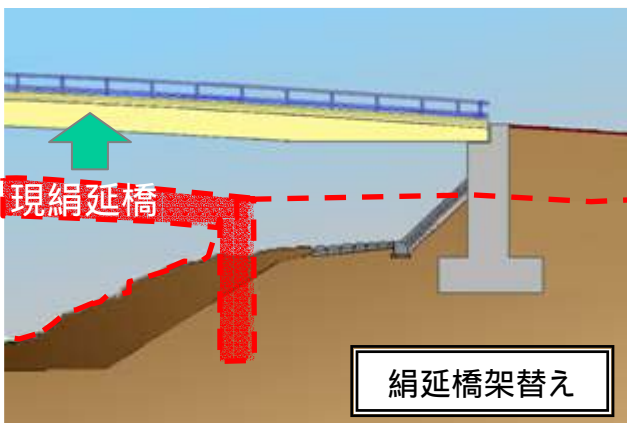
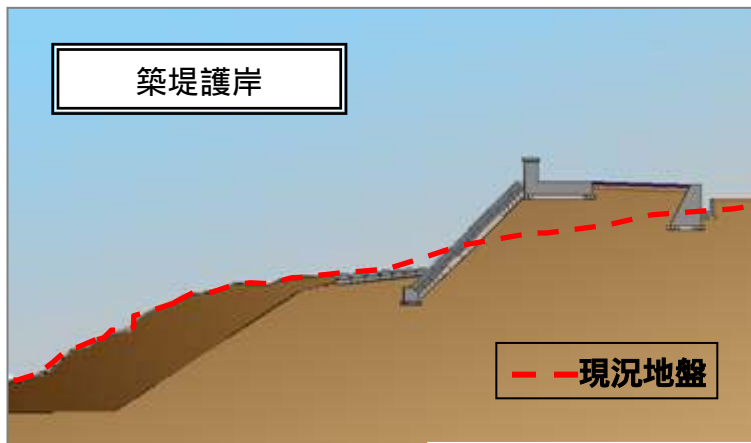
・全体事業費	約480億円
・うち執行済	約455億円
・うち整備計画期間内	約21億円
築堤	約18億円、橋梁 約2億円
樋門	約1億円
・うち整備計画期間以降	約0億円



平面図



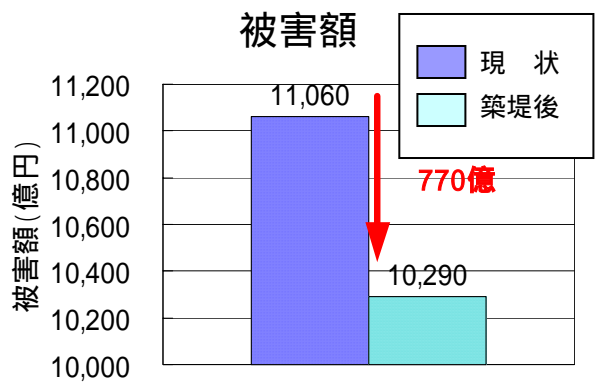
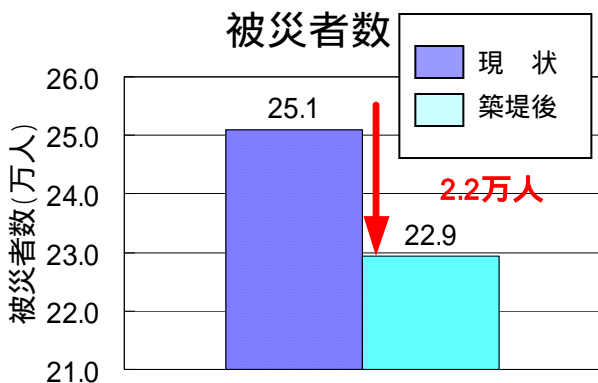
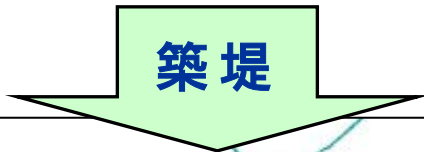
横断図



整備効果

・既往最大洪水（S35.8洪水）に対する
無堤地区からの浸水被害が解消する。

既往最大洪水時（S35.8洪水）がおこると、



提案理由

継続理由

・無堤区間は、

猪名川左岸：約390m

猪名川右岸：約460m

合計 約850m

< 関連事業の必要性 >

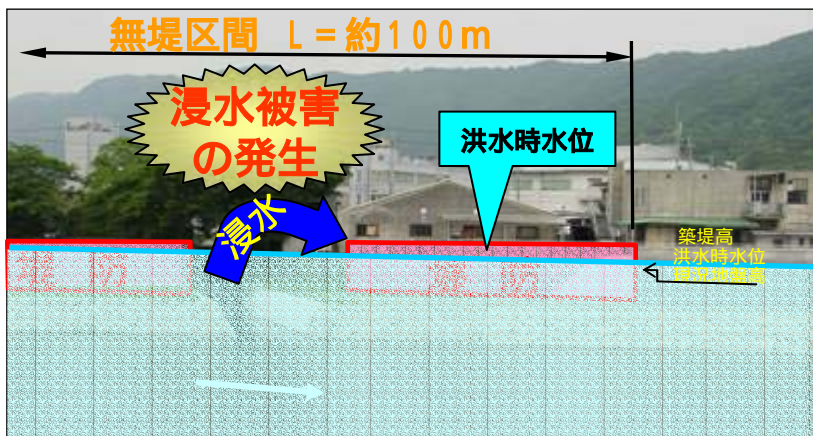
絹延橋架替え

築堤後、残された橋の箇所は川幅が狭いため水が流れにくく、大水がきた場合、越水により近接する人家が危険となる



古江排水樋門

築堤後、樋門がなければ
洪水時に水路部から宅地に浸水する



基礎原案での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.44	行	15行目
事業名	芥川大橋の架替を継続実施		河川名	芥川			
府 県	大阪府	市町村	高槻市		地先	芝生町	

現状の課題
 現在の堤防は必ずしも防災構造物としての安全性について十分な信頼性を有していない。破堤による被害ポテンシャルは現在においても増大し続けており、破堤すれば、人命が失われ、家屋等が破壊され、ライフラインが途絶する等、ダメージを受けることとなる。

河川整備の方針
 (3)一連区間整備の完成等
 既に一連区間の整備が進められてきており、ごく一部の区間のみが未整備である箇所限定し、速やかに事業を完了し浸水被害の軽減を図る。

位置図

具体的な整備内容
 ・芥川大橋の架替を大阪府の道路事業と共同で継続実施する。

・事業の数量・諸元等
 橋梁架替

事業費

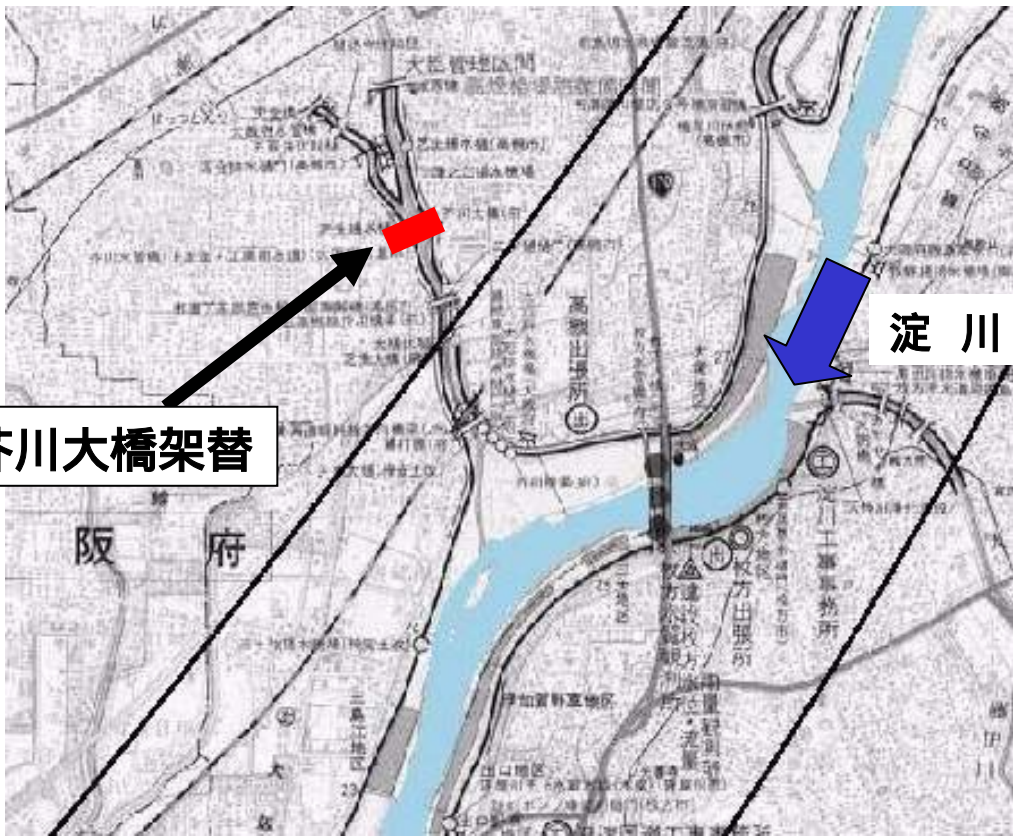
・全体事業費	約 5億円
・うち執行済	約 3億円
・うち整備計画期間内	約 2億円
・うち整備計画期間以降	0億円

スケジュール

H15	H16	H17	H18	H23	H25

■ 検討
■ 試行・委員会
■ 実施

平面図



横断図

芥川大橋諸元

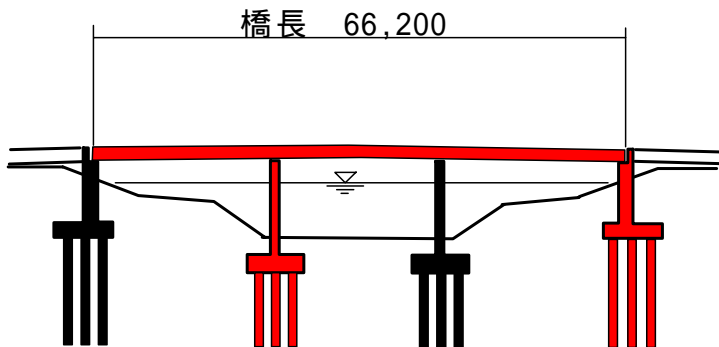
橋長 66.2m

設計速度 60km/h

3径間連続非合成鈹桁橋

幅員 16.3m

芥川大橋



完了
 事業箇所

整備効果

芥川大橋:平成9年に着手した橋梁架替の早期完成

大阪府と一体施工により事業の効率化が図れる。

芥川大橋架替に伴い、流下能力の向上が図れ、上流区間の水位が低減する

提案理由**芥川大橋架替の必要性**

平成9年に着手した橋梁架替の早期完成を図る

橋梁架替については大阪府と一体的施工により事業の効率化が図れる

具体的な整備内容

芥川大橋の架替を大阪府の道路事業と一体施工で平成15年度中に実施完成させる。